



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこぼと

2006. 11

No. 271

日本野鳥の会 埼玉県支部

S H I R A K O B A T O



2005/2006年冬鳥異変、さて今年度は…

——さいたま市深作川遊水池——

中村 清（さいたま市）、小荷田行男（さいたま市）

はじめに

2005/2006年冬は、例年に比べ野鳥の種、個体数とも少ないと感じた。そこでさいたま市深作川遊水池とその周辺で見られる野鳥について過去3年間のデータと比較した。

調査概要

(1) 調査範囲

調査範囲（図1）は深作川橋より宮ヶ塔橋に至る深作川の流れに沿い、深作川遊水池を中心とした地域。水田が広がり、その周辺には斜面林、雑木林、屋敷林など樹木の繁る場所もある。

(2) 調査方法

自転車で移動しつつ重要ポイントでは徒歩で、周辺部を含め時間をかけ観察している。

(3) 調査期間及び調査時間

調査期間は11月～2月の4ヶ月間の2～3日毎に1回、午前9時頃より12時頃までの約3時間である。

(4) 識別方法

7倍の双眼鏡と22倍の望遠鏡を使用し、目視確認したもののみを対象とした。

調査結果

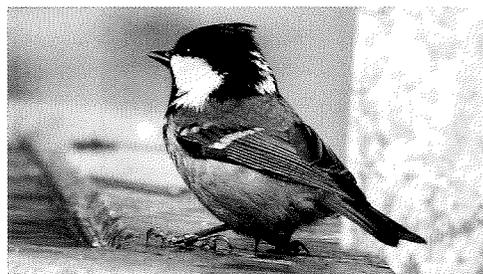
$$\text{種別出現率} = \frac{\text{当月出現回数}}{\text{月間観察日数}}$$

種別出現率を上記の様に定義し、過去4ヶ年の11月～2月に出現率の減少が20%以上認められた種を表1に示す。また2005/2006年冬の表1に示した種の4ヶ月を通しての種別出現率の推移を表2に示す。

ジョウビタキ、カシラダカ、オオジュリン、タゲリなど主にユーラシア大陸より飛来する種が著しく減少している。

冬鳥の異変は11月に表われた（表2）。飛来時期が約1ヶ月程度遅れたが、1月下旬から2月に徐々に回復している（表1、表2）。

カモ類は従来年により出現状況にバラツキがあったが（中村、小荷田2005）、2005/2006年冬は特にオナガガモの出現率、個体数が共に減少している。



ヒガラ（久保田忠資）

年間安定して見られる種ではゴイサギ、ダイサギ、コサギが減少している。

カワセミ、チョウゲンボウは出現状況の変動が元々あるので、減少傾向と言えるかは不明である。

シラコバトの年間出現率は当方の調査で、2001年は50.4%、2002年は50%、2003年は25.4%、2004年は19.4%、2005年は18.6%と下り続け、2005年11月から2006年2月、0%が続いている。

おわりに

1999年12月から著者は周年、2～3日に1回のペースで深作川遊水池とその周辺で見られる鳥の観察を行なっている（中村、小荷田2005）。継続した観察の結果、2005/2006年冬の野鳥の生息状況は例年と著しく異なっている。その原因は特に2005年12月、当地が例年に比べ気温が低かったため冬鳥がさらに南下して越冬した事が考えられる。コハクチョウが一家族、八丈島で始めて越冬した様に。その他、温暖化等の地球規模の気候変動、越冬中継地における餌事情の変化なども考えられる。引き続き当地での観察を行ない渡り鳥の変化について注視して行きたい。

文献

中村清、小荷田行男 2005 埼玉県南部深作川遊水池の鳥類相—1999年～2004年— さいたま市博物館研究紀要 No. 4 さいたま市立博物館 さいたま市立浦和博物館 さいたま

図1 調査範囲（1：25,000地形図 岩槻 平成15年更新 国土地理院発行を使用）

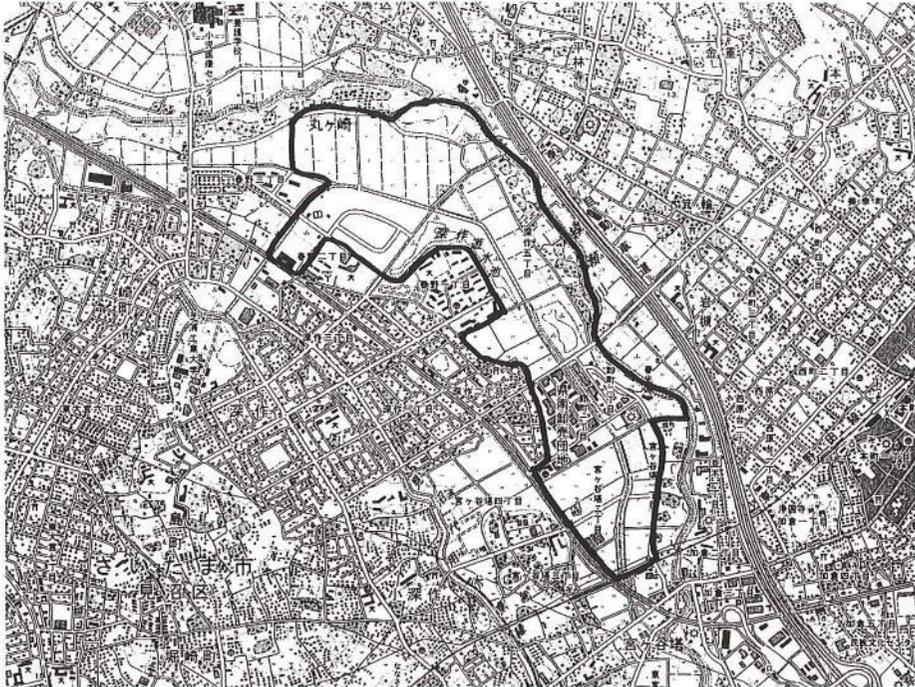


表1 深作川遊水池周辺で見られる野鳥の内、過去3ヶ年の11月、12月、1月、2月に出現率の減少が認められたものの一覧

単位 %

年	11月			12月			1月			2月		
	2003	2004	2005	2003	2004	2005	2004	2005	2006	2004	2005	2006
観察回数	15	14	14	15	12	12	11	13	12	9	12	11
ゴイサギ	86.7	7.1	14.3	60	0	0	18.2	7.7	0	55.6	25	9.1
ダイサギ	100	50	57.1	100	100	90	100	92.3	33.3	100	100	72.7
コサギ	100	28.6	100	73.3	66.6	100	90.9	84.6	83.3	88.9	75	54.5
オナガガモ	100	100	28.6	93.3	83.3	30	45.5	61.5	33.3	66.7	25	45.5
ハシビロガモ	6.7	78.6	42.9	26.7	91.7	60	63	53.8	25	0	25	63.6
ホシハジロ	26.7	14.3	0	33.3	8.3	0	0	0	33.3	0	8.3	45.5
チョウゲンボウ	46.7	42.9	7.1	6.7	58.3	20	9.1	23.1	41.7	11.1	41.7	18.2
タゲリ	26.7	7.1	0	33.3	25	20	18.2	7.7	25	0	8.3	0
シラコバト	40	14.3	0	6.7	0	0	0	0	0	0	0	0
カワセミ	26.7	7.1	42.9	80	16.7	70	63.6	46.2	33.3	33.3	16.7	36.4
ジョウビタキ	86.7	57.1	21.4	80	50	0	81.8	46.2	8.3	100	16.7	9.1
ツグミ	33.3	21.4	0	93.3	75	60	100	76.9	100	100	91.7	100
カシラダカ	26.7	28.6	0	73.3	33.3	20	100	100	25	100	91.7	72.7
アオジ	73.3	50	14.3	80	66.7	0	72.7	92.3	0	100	27	36.4
オオジュリン	6.7	0	0	33.3	8.3	0	100	70.5	16.7	100	91.7	100

表2 最近4ヶ月を通しての種別出現率の推移（2005年～2006年）

単位 %

観察回数	11月	12月	1月	2月	観察回数	11月	12月	1月	2月
	14	10	12	11		14	10	12	11
ゴイサギ	14.3	0	0	9.1	シラコバト	0	0	0	0
ダイサギ	57.1	90	33.3	72.7	カワセミ	42.9	70	33.3	36.4
コサギ	100	100	83.3	54.5	ジョウビタキ	21.4	0	8.3	9.1
オナガガモ	28.6	30	33.3	45.5	ツグミ	0	60	100	100
ハシビロガモ	42.9	60	25	63.6	カシラダカ	0	20	25	72.7
ホシハジロ	0	0	33.3	45.5	アオジ	14.3	0	0	36.4
チョウゲンボウ	7.1	20	41.7	18.2	オオジュリン	0	0	16.7	100
タゲリ	0	20	25	0					

第2次県内野鳥分布調査

2006年夏 サシバの今

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

はじめに

本調査は(表1)により実施された。本稿では、今回の注目種、サシバを報告する。

サシバの繁殖期生息状況

秋の渡りで知られたサシバの、県内の繁殖期の生息状況を調査した(表2)。

1985年～1990年の第1次調査では、25,000分の1地形図4分割メッシュで19メッシュ確認されたが、今回の調査では、わずか2メッシュであった(図1)。

県南のメッシュは、移動中の個体であった可能性が大きい。

おわりに

谷津田の生き物であるサシバは、谷津田という繁殖環境の消滅とともに、県内での繁殖は0という結果となった。

(小荷田行男)

表1 調査概要

調査期間	2006年5月10日～7月10日
調査方法	調査はがきによるアンケートほか
調査はがき	43通
その他	66
調査メッシュ数	109メッシュ(3次メッシュ)

表2 注目種サシバの調査

調査はがき数	2通
サシバ存在メッシュ	2メッシュ

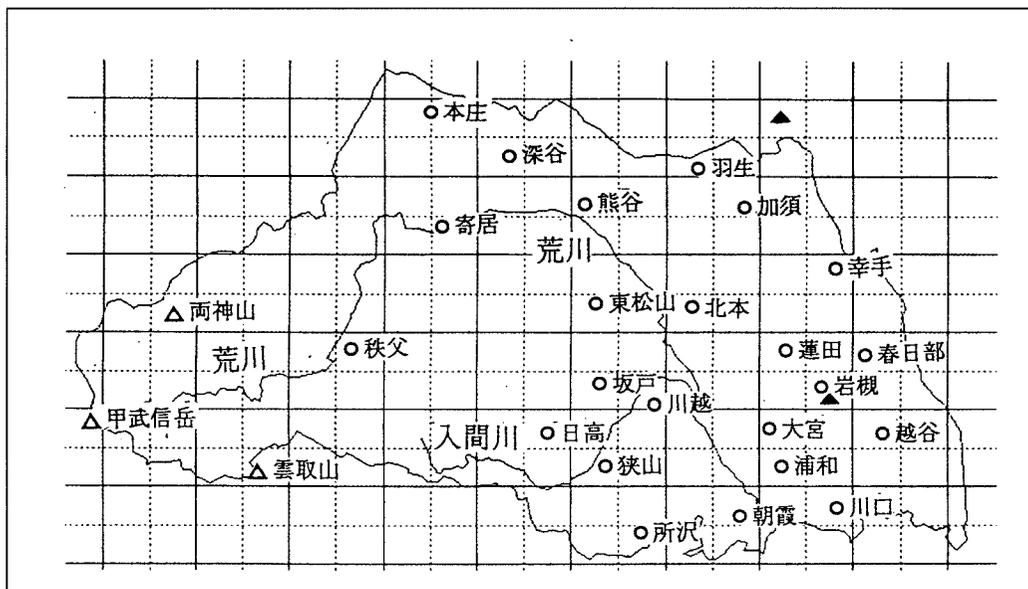


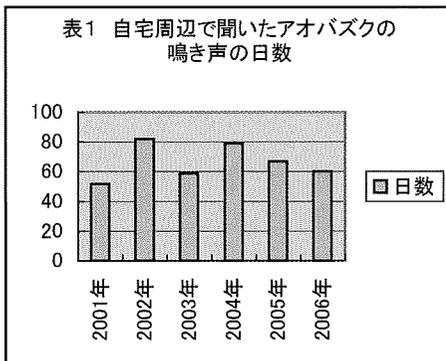
図1 サシバの分布(▲)

アオバズクの声の記録

新井哲夫（比企郡）

毎年、自宅近くにアオバズクが渡来し、その鳴き声を聞かせてくれています。その声に耳を傾けるのが本当に楽しみです。そこで、過去6年間の鳴き声を聞いた日数をまとめてみました。

2001年は52日、2002年にはこの6年間で最もよく鳴き、渡来から渡去までに82日を記録しました。2003年は59日、2004年は79日、2005年は67日、そして今年2006年は60日でした（表1）。



初認日と終認の日は、次の通りでした。

年	初認	終認
2001年	5月 1日	8月 20日
2002年	4月 16日	9月 1日
2003年	4月 26日	9月 19日
2004年	4月 27日	9月 22日
2005年	4月 23日	9月 13日
2006年	4月 23日	9月 15日

次に、鳴いた回数を、日没後と日の出前の時間帯に分けてみました。カウントは、その時間帯であれば何度鳴いても1回、同じ日の日没後と日の出前に鳴けばそれぞれ1回ずつとしました。その結果、6年間で498回を記録していました。そして、日の出前は311回（62%）、日没後は187回（38%）の結果を得ました。

なお、当地ではアオバズクのことを「ヨシコ、トッコ」と聞きなしています。「ホッポー、ホッポー」が女性の名前に聞こえるようです。

繁殖は確認していません。しかし、これだけ毎年鳴いていることや、また、自宅近くは森林も多いことから、おそらく繁殖しているのではなかろうかと推測しています。今年も、ある晩には離れた場所でお互いに鳴き交わしていました。

大宮のアオバズク情報

浅見 徹(さいたま市)

家の近く、大宮氷川神社のアオバズク情報です。毎年初夏になるとアオバズクが来て、営巣しています。初認、巣立ち～終認(?)までをまとめて報告します。

5月12日、氷川さまの参道でアオバズクの鳴き声。稍にとまるシルエットも。毎日同じ木から声が聞こえていましたが、6月4日、通勤の帰りに、営巣木が特定できました。参道のケヤキの洞。朝、木の下を探すと、ほぼ毎日オオミズアオ(オナガミズアオ?)の羽が落ちていました。オナガミズアオだとすると、大宮地区では絶滅危惧種の蛾! 何とも贅沢なグルメです。明るいうちは1羽(♂?)が営巣木の近くにとまって、見張りをしているようでした。6月30日、巣穴から♀?も出てきて、2羽が並んでとまっているとの情報。やっとなら孵化したかな? 参道のつがいとは別に、大宮公園の松の木にも営巣中との情報も。8月13日、参道のつがいはいつの間にかいなくなって、繁殖に失敗の様。残念! 公園のつがいは? と見に行くと、いました! 雛2羽をはさんで両脇に成鳥。営巣木の近くの桜の枝に4羽が仲良く並んでとまっていました。その後、だんだん行動範囲が広がり、行方知れずに。9月3日、リーダー研修会の帰り、一杯飲んでホロ酔い気分参道を歩いていると、アオバズクの声。まだ、氷川さまの周辺にいました。9月28日午後9時30分、またまたホロ酔い気分参道を歩いていると、アオマツムシの声に混じってアオバズクの鳴き声。まだいたのか。親か? 子か? 携帯で録音しました。酔っぱらいの空耳ではありません。いつか終認かは、なかなか特定できませんね。



野鳥情報

さいたま市大宮区大宮消防署防災センター付近

◇9月1日、久しぶりに芝川沿いを歩いてみた。防災センター脇の植え込み沿いの電線にムクドリが30羽程いて、中にコムクドリが7羽並んでとまっていた。少し離れた土手の草の茎にセッカがとまっていた(赤堀尚義)。

さいたま市大宮区第三公園 ◇10月3日午前8時ごろ芝川沿いを歩いていると聴きなれないしわがれ声が出て、暫く様子を見てみると大きな木の陰からカケスが8羽飛び立ち、ひらひらと飛んでいった。後にはモズが勝ち誇ったかのように鳴いていた(赤堀尚義)。

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇9月3日、村国池でギンヤンマを見ていたらサシバ1羽、奥の林から飛上がり、飛去る。9月24日午前8時頃、モズ高鳴き。村国池でカルガモ10羽の群れ。群れと離れた所に2羽、互いに見合っ、首を上げたり下げたり。その後、横に並んで首を上げたり下げたり。その内、片方がおもむろに近づいていって、交尾をした。奥の林からヤマガラ、カケスの声。オオタカ1羽飛ぶ。10月1日、アカゲラ♂1羽、ヤマガラの声、あちこちから聞こえる。カケス2羽上空通過(藤原寛治)。

さいたま市見沼区大宮南部浄化センター付近 ◇9月19日、まだ土手に夏草が覆い茂っている芝川の川辺でコサギが1羽。近くの土手の斜面にカルガモ2羽と並んでゴイサギ



キセキレイ(久保田忠資)

が1羽ゆつたりと背をかがめている。更に少し離れてアオサギが両羽をだらりと広げて日光浴。川面には2羽のカイツブリが冬羽に着替え中、4羽のコガモが長旅の疲れを癒していた。通り過ぎる風は確かに秋(赤堀尚義)。

さいたま市桜区秋ヶ瀬公園 ◇9月23日午前8時20分頃、子供の森でオオアカゲラ♀1羽。ヤマガラを見ていると声が出て、林の中でチラチラと動く赤い影が見えた。アカゲラかと思いつつスコープを合わせたらオオアカゲラだった。帰り際、人だかりの方へ行ってみるとマミチャジナイ1羽。他にツグミ科の鳥2羽(後でネットで見たらマミジロ♀と判明)、眉斑があり、胸に斑点があった。9月30日午前8時頃、サメビタキ1羽、ヤマガラ1羽、カケス2~3羽。カケスがドンダリの皮をくちばしでつついて、器用に皮を剥き、中の実をとりだして、食べていた。モズの高鳴きがあちこちから聞こえる。メジロ、シジュウカラの声が多い。午前9時30分頃、広場の外れの方で木の横枝でじっとしているヨタカ1羽、眠そうなたつぶらな目がかわいかった。その他アカゲラ1羽確認(藤原寛治)。

川口市西新井宿 ◇9月20日、ヤマガラ1羽、自宅の庭に現れる。2mぐらいに近寄っても飛ばない。人懐っこい鳥だ。9月23日、キビタキ♂♀各1羽、コサメビタキ1羽、マミチャジナイ1羽。キビタキは毎年来るが、コサメビタキとマミチャジナイは当地で初めて観察した。9月24日、キビタキ♀1羽、コサメビタキ1羽、エゾビタキ1羽、マミチャジナイ1羽。先日はいなかったエゾビタキが頭上2mぐらいのところに止まった。胸の黒い縦斑がはっきり見えた。9月30日、キセキレイ1羽、アカゲラ2羽。キセキレイは当地にて今シーズンの初認。秋の渡りは着々と進んでいる(須崎聡)。

蓮田市笹山 ◇9月18日、刈取りの終わった田んぼの砂利道でシラコバト2羽。2mの至近距離まで近づいた(本多己秀)。

蓮田市黒浜 ◇9月23日、アマサギ30羽、チュウサギ19羽、コサギ1羽。田の刈り跡で

バッタを食べたり休んだりしていた（本多己秀）。

蓮田市蓮田 ◇9月27日、根ヶ谷公園でオナガとムクドリの大群。シジュウカラとメジロの混群、コゲラが1羽混じっていた。平凡な風景だが、秋の到来を感じる（本多己秀）。

幸手市戸島 ◇9月18日、アマサギ約250羽、アマサギの群れ中にチュウサギ20羽。どちらも冬羽だった。田んぼ一面にアマサギが群れており壮観だった（本多己秀）。

吉見町南吉見 ◇8月20日、前面に水のたまった休耕地でセイタカシギ1羽。9月17日、同所の僅かな水たまりでタカブシギ2羽（鈴木敬）。

深谷市本田 ◇8月26日、吉野川でクサシギ1羽。農耕地で電柱にとまるオオタカ成鳥1羽。9月2日、荒川白鳥飛来地でトウネン6羽、オジロトウネン1羽、キアシシギ1羽、ヒバリシギ1羽。9月9日、同所でトウネン2羽、タカブシギ1羽、ショウドウツバメ約20羽。ミサゴ1羽上空を通過。9月16日、吉野川沿いの所々に水のたまった休耕地でアカエリヒレアシシギ冬羽1羽、歩きに泳ぎを時々まじえて、採餌していた（鈴木敬）。

富士見市水子 ◇7月9日、柳瀬川左岸の田んぼでアカガシラサギ1羽（柳瀬川の自然を考える会）。

所沢市山口 ◇9月7日、午前7時40分頃、自宅で植木に水遣りをしているとカラ類の混群が賑やかにやって来た。先頭はやはりエナガ。シジュウカラ、ヤマガラ、メジロ、コゲラが続く。肉眼の確認だが若鳥もかなり混じっている。40羽ほどの大半は西から東へどんどん移動して行ったが、コゲラはあちこち飛び移っては採餌、ヤマガラに至ってはしばらくエゴノキの実をつついた後反対方向に飛んで行った。でもその先にもやはりエゴノキが数本ある（小林ますみ）。

狭山市智光山公園 ◇9月15日、ツツドリ2羽。落葉がだいぶ進んだ桜の木で大きな獲物（けむし）をパクパク。見ている当方、喉がカユくなった（久保田忠資）。

狭山市稲荷山公園 ◇10月3日、エゾビタキが三羽、盛んに採餌していた。（久保田忠資）。

表紙の写真

スズメ目ホオジロ科ホオジロ属カシラダカ

探鳥会で「カシラダカ！」と言うのに、「え、タカですか？ どこですか？」とリアクションしてくれる人がいると、楽しくなりますね。

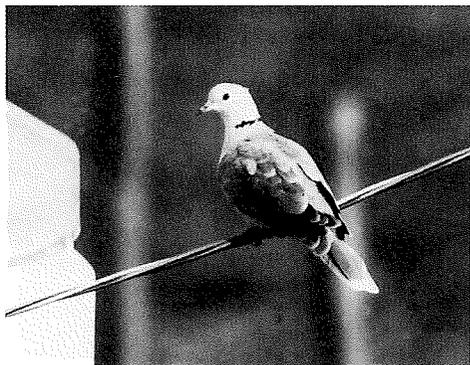
普通種が好きな鳥見人（さいたま市）

野鳥記録委員会の情報

●埼玉県野鳥チェックリスト2006年版を発行

2003年版の誤記を2ヵ所訂正（オオノスリを削除、タマシギを追加）、2003年4月以降2006年7月までに新たに県内で確認された次の7種を加え、合計319種になりました。

アビ 2003年11月16日 所沢市狭山湖
コグンカンドリ 2004年5月7日 所沢市狭山湖
アカアシチョウゲンボウ 2006年4月27日 本庄市坂東大橋下流
レンカク 2003年7月20日 さいたま市見沼区
オオメダイチドリ 2004年4月19日 本庄市坂東大橋下流
ワキアカツグミ 2003年3月18日 春日部市と宮代町の境界付近
オウチュウ 2005年6月8日 吉見町今泉



シラコバト（大澤 祐）



行事案内



タゲリ(本橋紳浩)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費：一般 100 円、会員と中学生以下 50 円。持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば双眼鏡などの観察用具も(なくても大丈夫)。解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。悪天候の場合は中止、小雨決行です。

できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

上尾市・丸山公園探鳥会

期日：11月5日(日)

集合：午前8時、丸山公園北口駐車場。

交通：JR 高崎線上尾駅西口 1 番バス乗り場から、西上尾車庫行き(畔吉経由)7:32 発で「畔吉」下車、徒歩約 8 分。

担当：大坂、立岩、阿久沢(キ)、阿久沢(廣)永野(安)、永野(京)、山野、浅見、長谷川

見どころ：いよいよ冬鳥の見られる季節。早朝の公園や河川敷を歩いてみませんか。カワセミやジョウビタキ、ツグミ、オオタカにきっと会えるでしょう。

志木市・柳瀬川探鳥会

期日：11月5日(日)

集合：午前9時、東武東上線柳瀬川駅東口前。

担当：佐久間、高草木、志村、神場、中村(治)、中村(祐)、荒木、山田(義)、杉原、原、藤澤、持丸、山口

見どころ：黄色が深まっていく中、カモ、セキレイ、チドリの仲間、ジョウビタキなどを見ながら柳瀬川沿いに歩きます。タゲリ、タシギもいるといいな。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：11月12日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷 9:11 発、または寄居 8:49 発に乗車。

担当：後藤、和田、森本、中里、大澤、倉崎、高橋(ふ)、後藤、藤田(裕)、栗原、飛

田、新井(巖)

見どころ：冬越しの鳥たち、ジョウビタキやツグミなどが渡ってきています。明戸堰ではコハクチョウ、長旅の衣からヘンシーン中のカモたちが待っています。

さいたま市・秋ヶ瀬公園自然観察会

期日：11月12日(日)

集合：午前9時、秋ヶ瀬公園ピクニックの森駐車場。

交通：浦和駅西口から荒川運動公園行きバス 8:17 発、または東武東上線志木駅東口から与野駅西口行き 8:25 発にて、「下大久保」下車、徒歩約 8 分。

担当：小荷田、佐久間、杉原、藤田(敏)

見どころ：今回のテーマは「野菊を調べよう！」。行く秋を惜しむかのように野菊が開花中。関東地方内陸部では、9種の在来種野菊が生育。秋ヶ瀬では？野菊の名前を知り、それぞれの生育環境を調べよう。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：11月18日(土) 午後3時～4時ころ

会場：支部事務局 108 号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：11月19日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、福井、倉林、渡辺(周)、若林、

小菅、赤堀、新部、青木、宇野澤、増田

見どころ：おかげさまで250回の探鳥会を無事終えて冬鳥のシーズン。季節は鳥の暦で回っている。ツグミ、ジョウビタキ、アオジと懐かしい鳥たちが出現してくれる。斜面林のコナラやクヌギが色づいた見沼田んぼへ。

嵐山町・菅谷館都幾川探鳥会

期日：11月19日(日)
集合：午前8時40分、東武東上線武蔵嵐山駅西口。または午前9時10分、県立嵐山史跡の博物館駐車場。

交通：東武東上線川越8:03発、寄居8:12発
担当：後藤、喜多、大澤、青山、新井(巖)、倉崎、中村(豊)、林、千島

見どころ：落ち葉のシーズンを迎え、冬鳥たちが姿を見せるようになりました。ツグミや、イカル、カシラダカなどを探してみましょ。

さいたま市・見沼自然公園探鳥会

期日：11月23日(木・祝)
集合：午前8時15分、JR大宮駅東口「こりすのトトちゃん」像前。または午前9時15分、見沼自然公園駐車場。

担当：工藤、松村、百瀬、渡辺(嘉)、赤堀、新井(勇)

見どころ：自然公園の池では、近くまでカモたちが寄ってきます。じっくりと識別の勉強をしたい方は是非ご参加ください。雑木林や、田んぼにも冬鳥が来ています。

春日部市・内牧公園探鳥会

期日：11月23日(木・祝)
集合：午前9時15分、アスレチック公園前駐車場。

交通：東武伊勢崎線春日部駅西口朝日バス③番から、彩光苑・春日部エミーナス行き8:41発で「共栄大学・短大前」下車。西へ徒歩3分。

担当：石川、吉安、中村(榮)、新井(良)、松永、宮下、吉岡(明)、野村(弘)、野村(修)

見どころ：年毎に環境の変わる内牧です。北

国からの冬鳥たちや、里におりてきた山の鳥たちとの再会が待ち遠しい。これまで30種を超えていませんが、皆さんの目に期待しています。

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：11月26日(日)
集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。
交通：西武新宿線本川越8:43発、所沢8:36発に乗車。

担当：長谷部、藤掛、高草木、中村(祐)、山本(真)、久保田、石光、山田(義)、山口

見どころ：冬鳥の季節になりました。もうツグミやシメには会いましたか。見なれた鳥たちも久しぶりの再会は新鮮です。

蓮田市・黒沼探鳥会

期日：11月26日(日)
集合：午前8時40分、JR宇都宮線蓮田駅東口バス停前。

担当：玉井、吉安、田中、長嶋、長野、菱沼(一)、榎本(建)、青木、鬼塚

見どころ：さわやかな朝の空気の中、農村風景を楽しみながら冬の小鳥たちに会いに行きます。枯れ始めたアシ原には鳥たちの気配、沼には帰ってきたカモや水鳥たち、加えてオオタカが勇姿を見せてくれたら最高ですね。

本庄市・坂東大橋探鳥会

期日：11月26日(日)
集合：午前9時20分、JR高崎線本庄駅北口集合後、十王バス9:20発、新伊勢崎行きで「坂東大橋南詰」下車。または午前9時30分「つきみ荘」北側。駐車は土手側のみで、「つきみ荘」内には駐車できません。

担当：新井(巖)、町田、小池(一)、小池(順)、倉崎、藤田(裕)

見どころ：色鮮やかになったカモたちが勢揃いしてくれるはず。冬の小鳥たち、猛禽類も出迎えてくれるでしょう。

注意：現地にはトイレがありません。川面を渡る風は冷たいので防寒はしっかりと。



行事報告

5月7日(日) 加須市 加須はなさき公園
参加: 14名 天気: 曇

カイツブリ カワウ ダイサギ マガモ カルガモ チョウゲンボウ キジ コチドリ タシギ コアジサシ キジバト カワセミ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス オオヨシキリ セッカ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (28種) 連休最後の休日なのに、朝まで続いた雨のためか、少人数の第4回共催探鳥会になった。近くでサンコウチョウやキビタキが出た情報に期待を抱いてスタート。植物園ではオオヨシキリが轉る中、カワセミが出迎えてくれ、雨上がりの田んぼでは仲良く探餌するキジの番に、足元から突然飛び立ったタシギに、そして狩りをするチョウゲンボウに、皆夢中になった。初心者を対象にした図鑑や資料(バードウォッチング入門(その3))を用いた「野鳥の探し方」や、ライフリスト150種前後のベテラン向けOne Point Lesson「人工衛星によるサンバトとハチクマの渡り調査」も好評のようだった。「ウルトラ晴れ男」に感謝! (長嶋宏之)

5月14日(日) 熊谷市 大麻生
参加: 20名 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ マガモ カルガモ キジ コチドリ キジバト コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ウグイス シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (23種) 前日からの雨が上がり、清々しい陽がさしてきた土手に上がると、三脚を立てていられない程の強い風が吹いていた。咲き始めたニセアカシアの純白の花の中、ホオジロが気持ちよさそうにさえずっていた。途中の水たまりではシジュウカラが水浴びしていた。順光で見るとその背中の色ぐあいは実にすばらしい。皆でじっくり見ることができた。ムギ畑の中ではキジが顔をのぞかせてくれた。初めて見るというある

女性はかなり興奮していた。明戸の堰では今年もマガモの親子が楽しそうに泳いでいた。無事に育って欲しい。タカ類が顔を出してくれなかったのが残念だった。(中里裕一)

5月14日(日) 嵐山町 菅谷館都幾川
参加: 32名 天気: 晴

カワウ ダイサギ コサギ オシドリ カルガモ ツミ コジュケイ キジ イカルチドリ キジバト ホトトギス カワセミ アオゲラ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ウグイス オオヨシキリ センダイムシクイ セッカ サンコウチョウ エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (36種) 駅西口を出発後、近くの神社の枯木の頂にツミが羽を休めているのを確認。菅谷館跡ではサンコウチョウのさえずりが……。参加者全員釘付け状態。♀1羽を確認。都幾川ではオシドリのみ♀、カワセミ等の出現に大騒ぎ。大変楽しい、満足度の高い探鳥会だった。皆さんご苦勞様でした。(後藤康夫)

5月20日(土) 『しらこぼと』袋づめの会
ボランティア: 15名

浅見徹、新井浩、江浪功、海老原教子、大坂幸男、尾崎甲四郎、佐久間博文、志村佐治、千野安以、新部泰治、原田譲、藤掛保司、藤野富代、松村禎夫、山口芳邦

5月21日(日) さいたま市 三室地区
参加: 96名 天気: 晴

カイツブリ ゴイサギ カルガモ キジ バン コチドリ イソシギ キジバト カッコウ カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ ウグイス オオヨシキリ セッカ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (28種) 5月の例会は開催日が悩みの種。遅くなればカッコウに出会えるのだ。今回は一番遅い日にちとなり、カッコウが鳴き、姿も見せて満足。コチドリ、セッカ、オオヨシキリと初夏の鳥も大合唱していた。参加者も96名と多く、奥多摩支部のメンバーも参加してたくさんの交流があった。(楠見邦博)

5月24日(水) 栃木県 奥日光

参加: 26名 天気: 晴

マガモ コガモ キンクロハジロ トビ ノスリ
キジバト ジュウイチ カッコウ アオゲラ ア
カゲラ コゲラ イワツバメ キセキレイ ハク
セキレイ モズ カワガラス ミソサザイ コマ
ドリ コルリ ノビタキ ウグイス メボソムシ
クイ エゾムシクイ センダイムシクイ キクイ
タダキ キビタキ オオルリ サメビタキ エナ
ガ コガラ ヒガラ シジュウカラ キバシリ
ホオアカ アオジ ニュウナイスズメ スズメ
ムクドリ ハシボソガラス (39種) 素晴らしい探
鳥日和。気持ちの良い五月晴れの下、湯ノ湖畔か
ら戦場ヶ原・光徳まで、初夏の探鳥ハイキングを
堪能した。鳥影も濃く、さえずりもいたるところ
から聞こえてくる。お目当てのキビタキ・ノビタ
キ・ホオアカもじっくり姿を見せてくれた。心配
された天気の問題もなく、最後は余った予算で、
光徳牧場のアイスクリームを皆で食べて、会計報
告も無事終了。(榎本秀和)

5月27~28日(土~日) 長野県 戸隠・飯綱高原

参加: 30名 天気: 27=晴後曇、28=曇時々雨

カイツブリ アオサギ カルガモ オシドリ ト
ビ ノスリ クマタカ キジバト ジュウイチ
カッコウ ツツドリ ホトトギス ヒメアマツバ
メ アマツバメ アオゲラ アカゲラ コゲラ
ツバメ イワツバメ キセキレイ セグロセキレ
イ サンショウクイ ヒヨドリ モズ ミソサザ
イ コルリ マミジロ クロツグミ アカハラ
ウグイス オオヨシキリ センダイムシクイ キ
クイタダキ キビタキ オオルリ サメビタキ
コサメビタキ エナガ コガラ ヒガラ ヤマガ
ラ シジュウカラ ゴジュウカラ キバシリ メ
ジロ ホオジロ ノジコ アオジ クロジ カワ
ラヒワ マヒワ イスカ イカル ニュウナイス
ズメ スズメ コムクドリ ムクドリ カケス
ハシボソガラス ハシブトガラス (60種) 天気が
心配されたが、どうにか問題なさそうである。下
見の結果、飯綱を回ることにした。大座法師池で
はカッコウが出迎えてくれ、じっくり観察できた。
カラマツの陰で鳥影が動く。イスカの番と幼鳥で
あった。一同大騒ぎ。幸先の良いスタートであっ
た。その後、鏡池で昼食、森林植物園を観察した。
植物園は例年よりも鳥の声が少なく感じた。ミズ

バショウは残雪が多かったためか、最盛期であっ
た。翌日の早朝の探鳥では、コルリが木道の近く
で囀っていて、姿をじっくり観察することができ
た。コサメビタキ、サンショウクイ、キバシリ、
ゴジュウカラは良く見られたが、ノジコ、クロジ、
ミソサザイの姿がない。鳥の数のバラツキが多い。
天気が良くないので昼食は宿の食堂で取った後、
宝光社周辺を探鳥した。明るくなってきた空にア
マツバメとヒメアマツバメが乱舞していた。

(菱沼一充)

5月28日(日) 狭山市 入間川

雨のため中止。

6月3日(土) 羽生市 羽生水郷公園

参加: 38名 天気: 曇

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ チュ
ウサギ コサギ カルガモ キジ コチドリ コ
アジサシ キジバト ヒバリ ツバメ ハクセキ
レイ オオヨシキリ セッカ ホオジロ カワラ
ヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラ
ス ハシブトガラス (23種) 工事が終わって新し
いコースを設定した。新緑の樹々のトンネルをく
ぐって木道を進む。セッカがせわしく行き交っ
ていた。アシ原ではオオヨシキリがしきりにさえず
っている。間近なので真っ赤な口の中まで良く見
える。相変わらずの人気者だ。田圃ではサギ類の
識別の勉強会となった。ヤマボウシの咲き誇る傍
らで鳥合わせを行った。カッコウが出なかったの
は残念だった。(中里裕一)

6月4日(日) 北本市 石戸宿

参加: 56名 天気: 曇

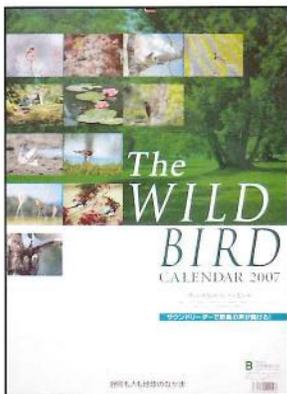
アオサギ カルガモ ノスリ コジュケイ キジ
キジバト ホトトギス コゲラ ツバメ ヒヨド
リ ウグイス オオヨシキリ ヤマガラ シジュ
ウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ
ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (21
種) 紫色に熟した桑の実があちこちに見られる。
桑の実はブルーベリー同様、目に良いそうだから、
目を酷使するバーダーにはちょうど良いおやつか
も。それにしてもホトトギスはしきりに鳴いてく
れるが、姿はいつこうに見つからない。欲求不満
だなあ。(榎本秀和)



●カレンダー発売中

The WILD BIRD CALENDAR 2007、税込み定価 1,470 円、会員価格 1,250 円。

裏の解説ページに印刷された音声バーコードを、別売りの再生装置(8,033 円)でなぞれば、野鳥の声が聞こえます。



カレンダーは支部探鳥会などで販売中。別売り再生装置は、カレンダーに記載してある通信販売でお求めください。

カレンダーは支部探鳥会などで販売中。別売り再生装置は、カレンダーに記載してある通信販売でお求めください。

●狭山湖特別保護地区の期間更新

所沢市と入間市にまたがる狭山丘陵 591ha の特別保護地区指定を、更に 10 年間(平成 18 年 11 月 1 日から平成 28 年 10 月 31 日まで)期間更新することについて、県みどり自然課から意見を求められ、9 月 12 日、賛成意見を伝えました。

●羽生水郷公園探鳥会中止します

9 月末をもって土曜日曜のバス運行が廃止されてしまいました。ほかの公共交通機関はなく、羽生駅または加須駅からタクシーを利用すると 15 分かかります。当支部の探鳥会は、公共交通機関で集まれる所、ということがひとつの前提となっていますので、支部長・副支部長・普及部長で相談して、羽生水郷探鳥会は、11 月に予定されていたものから今後も含めて、中止することになりました。

●第 2 回秋ヶ瀬野鳥クラブ写真展

期間：11 月 18 日(土)～26 日(日)

会場：さいたま市桜区プラザウエスト 1 階ギャラリー(浦和駅西口 5 番バス乗り場から桜区役所へ。隣の建物)

今年はシロハラクイナの出現から子育てまで、一連の組写真も展示されます。入場無料。

●事務局の予定

- 11 月 4 日(土) 編集部・普及部・研究会会議
- 11 月 11 日(土) 12 月号校正(午後 4 時から)
- 11 月 12 日(日) 役員会(午後 4 時から)
- 11 月 18 日(土) 袋づめの会(午後 3 時から)
- 11 月 18 日(土)～19 日(日) 当支部主催の関東ブロック協議会(プラザホテル浦和で)

●会員数は

10 月 1 日現在 2,272 人です。

活動報告

9 月 8 日(金) 県カワウ協議会に出席(小荷田)。
9 月 9 日(土) 10 月号校正(海老原美夫・志村佐治、藤掛保司)。

9 月 17 日(日) 役員会(司会：田邊八州雄、各部の報告・関東ブロック協議会準備・指導依頼への対応・その他)。

9 月 20 日(水) 10 月号を送付(倉林宗太郎)。

編集後記

シロハラクイナが繁殖した付近の田んぼは、古くは「神子田(みこた)」と呼ばれていたとか。農薬散布中止などでご協力くださった農家の T さんがそこで収穫したコシヒカリ 100% は「神子田米」というブランドで、シロハラクイナのステッカーを貼って、3kg1,500 円。頼まれた分も含めて 8 袋購入。農家直売、新米の味を楽しんでいます。(海)

しらこぼと 2006 年 11 月号(第 271 号) 定価 200 円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com

住所変更退会などの連絡先は 〒151-0061 渋谷区初台 1-47-1 小田急西新宿ビル 1 階
 (財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

本誌掲載記事はホームページに転載されます。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。再生コート紙を使用しています。 印刷 関東図書株式会社